

温暖化の笑劇 パート1

# DANDANおんだんか

作 ち垣 政裕

登場人物 ( ? )

クマ 雄

クマ 雌

トンボ (ヤゴ)

ロック歌手

舞台には3つの高さの違う台が設置されている。この台は椅子に使われたり、自動車のシートになったりする。変な動物の格好をしたロック歌手が舞台を通り過ぎる。

♪おんだんか

シヤナリ街ゆく、お嬢さん  
お肌の黒さが気にかかる  
太陽いっぱいサンサンサン  
・・・のほが  
電気いっぱいサンサンサン

声を囁らした、お兄さん  
今日も決めるぜRV  
自然がいっぱいサンサンサン  
・・・のほが  
ガソリンいっぱいサンサンサン

DANDAN DANDAN おんだんか  
DANDAN DANDAN おんだんか  
どうにもとまらぬ おんだんか

年をとった雄グマが編み物をしながら出てくる。適当にアドリブで。だぶだぶのズボン。

クマ

ここんとこ編み物にはまっていますね、はい、彼女への誕生日のプレゼントなんです。そりゃ、その〇〇〇へ行けば、セーターなんてすぐ買えますよ。買えますけど。なんていかな、愛ってやつですかね。(会場の人に)ねえ、あなた、ときどきふっとそんな気がしたことありませんか、「手編みのセーターをプレゼントしたい」なんて・・・ないっ?!いえ、別に男だからって恥ずかしいってことはないんですよ。あなたの小さな勇気が、「編み物をしたい」と言い出せなかった男たちを勇気づけることだってあるんですから。さあ、言ってみましょうか?「編み物がしたあい!」はいっ!あっ、そう。別に、後でトイレの中でつぶやいてもいいんですよ。えっ?そう。私のようなクマが編み物をするなんて、おかしいっていう人もいますかね。クマにはながあい小指がないから毛糸の端をこんな風に絡められないっていいですがね・・・愛ってやつですかね・・・フフフ、爪でちゃんとできるように努力したんです。(爪で器用に編んでみせる)実はこの間、フリーマーケットでやすいセーターを三着、手に入れましてね、それをほぐして、三色の毛糸を作ったんですよ。

新聞紙にくるまって、ヤゴがゴソゴソしている。周辺には空き缶・瓶が散らばっている。

クマ

もうすぐ一二月、彼女の六〇回目の誕生日ですからね。五九回目は手編みのマフラーでして・・・その前の五八回目はリリアンで編んだひもだけでしたから。進歩でしょう？今年は思い切ったセータに・・・フフフ、愛ってやつですかね。ちょっと聞いた話では、昔ね、遠い昔。京都に世界中の人が集まって会議をやったんだそうですね。地球が暖かくなってるのを防ぐためにはどうするかって。まあ、暖かくなったら、手編みのマフラーはできませんので、考えなくちゃいけませんかね。あれ、あれ、こんなにちらかしちまって。ほら、あっちへ行きな。（ヤゴを追い出し）新聞は、新聞でリサイクル用に縛っておいと。ああ、缶や瓶はね、ちゃんと集めなきゃあね。昨日は天気が良かったもんで、このあたりの山は月遅れの芋煮会で賑わってましてね。終わった後はこの通りですわ。自然に親しむのもいいんですが・・・クマが後かたづけしてるなんて誰も思わないでしょうね。

雌グマ登場。やや、派手な格好をしている。

雌グマ

（顔を見るなり大きなあくびをする）フウワアアアアア。あら、ごめんなさい。このごろ眠れなくて。近くにコンビニがきたり、キャンプ場がきたり。電気煌々とつけて、音楽流して、バーベキューですよ。眠れないのよ。目に、ほら、こんなにクマができちゃって。アワワワ、あらっ、ごめんなさいね。

クマ

いや、べつに・・・普段なら冬眠の時期だから、眠いのは仕方がないですよ。僕だって、冬眠の準備をしなきゃならないんですが、冬がなかなか来ないもんで。それに、そのあくび・・・うふっ、かわいいですよ。（照れる）

雌グマ

ところで、どうして、私をこんなところに連れ出すの？私いやだわ、誰かに見られてるような気がして。

クマ

（会場を見て）見られていますか？やっぱり。まあ、ランデブーは人気のない所と相場は決まっていますよ。

雌グマ

ねえ、おねがい。他の所へ行きましょ。

クマ

他の所っていつても・・・あ、いいでしょう。じゃあ、自転車をとってきますから。

雌グマ

自転車で行くの？

クマ

はい、昔からクマの乗り物は自転車や玉乗りと決まってるのですが……

雌グマ

わたしも？

クマ

はい。人間が飽きて捨てていった二人乗りのがあるんですよ。いちどあなたと二人で乗ってみたかったです。この間までイノシシをのっけて練習してたんですが、イノシシにやつ、背中にぴったりくっつくもんで、生臭い鼻息が背中にあたってフンガフンガッテ気持ち悪いんですよ。

♪

丘を越えてえいこよ……

サイクリング・サイクリング・

ヤッホー・ヤッホー

自転車旅行……

(クマ、調子に乗って踊り出す)

はああい、一緒に。ワンツー、ワンツー。

健康にもいいですよ。空気は汚さないし。

雌グマ

(クマの横っ面をたたいて) もう、やめてっ！ なにが、サイクリング……疲れるだけよ。

クマ

あつ、でも、おなかも引っ込むし……

雌グマ

(自分のおなかを見て) よっ、よっ、よけいなお世話よ。こんな、役にも立たないマフラーなんか編んじやって。(マフラーを投げ捨てる) クマなら、もっと、クマらしくかっこよくできないの。

クマ

あつ、それは五九回目の……

雌グマ

そう、私の五九回目の誕生日にくれたのよお、あなたが。でも、もういらぬの。だって、マフラーなんかするほど寒い日はもうなくなったのよ、このあたりじゃ。あはん、それ知ってて、マフラーをプレゼントしたのね、あんたは。

クマ

そんなつもりじゃ。はあ、クマったなあ、目の前がマフラー(雌グマに叩かれる)いててっ。

雌グマ

もう、こんなとこ嫌っ！ 住む場所、変えるわ。

クマ

変えるって……でも、もうすぐ冬だから、冬眠をしなきゃ。新しい住処(すみか)を見つけるのは難しいよ。六〇年間住ん

だんだんから。

雌グマ

なにがあ六〇年よ、そんなにそんなに年寄りじゃないのよお。  
・・・まだ、五九年ですっ！冬眠なんかしてたら、小皺が増えるだけよ。いまなら、冬の間だって、楽しいことができるんだから。これから温水プールに通うの。やっと念願の泳ぎが覚えられるわ。

クマ

でも、クマは冬眠することに・・・食べ物がないんだから。それに、泳ぐんだったら広瀬川で、夏に・・・。

雌グマ

うっとうしいのよ・・・そういう生活。毎日、人の残していった新聞や缶の整理ばかり。いいじゃないのまとめて、ポイって捨てれば。都会じゃ、みんなそうやってるわ。それに、街の近くにいれば、食べ物なんか食べきれないほど捨てられているわ。ああ、あこがれの都。私、街に出るわ。

クマ

何でも知ってるんだね。

雌グマ

まいにちクマさん便が届けてくれる月刊誌「ミニットクマの生活」にね、「いまどき、都会のクマの暮らし方」って特集が組んであったの。その中の「クマに優しい生活―熟年グマの文化

生活」って。

クマ

「文化生活」かあ、少し古いが・・・。

雌グマ

それに、私にはアドバイスをしてくださる方がいらっしやるの。

クマ

えっ！それって、まさか？

雌グマ

とつてもすてきな方なの。ああいうの、イケメン熊っていうのかしら。ああ、考えただけでも心臓がバクバクね。もうすぐ、三ナンバーのRV車で迎えに来てくださるのよ。あの方の住処には、エアコンがついていて、一年中快適な暮らし。ピットと手元のスイッチを肉球で押すだけで、大きな画面でテレビが見られるの。エコポイントも付いてたから、それでクマ用のジュースー買ったらしいの・・・この間なんか、二人ではちみつレモンカクテルを飲みながら「クマまで二十七時間テレビ！」を二人で見たら、朝がくるの忘れて・・・あらっ、ごめんない。

クマ

でも、資源は有効に使わなくちゃ、クマは・・・（首をうなだれる。）

雌グマ私、

五九年間もクマだったんだから、もういいでしょ。私には新しい生活が待っているの。これ、返しとくわ。さよなら。リサイクルグマさん。(退場)

クマ

「リサイクルグマ」って、まるで俺がリサイクルされるみたい  
に・・・(がっかりしながら袋の中を覗く) おれが五八回目に  
プレゼントした、リリアンで編んだ首ひもだ。

クマがうなだれているところへ、歌手。ロックバラード風に。

♪ あまくせつない恋物語

気分次第で

ハートブレイク

(コーラス) ギブミー・フォスル・ヒュエル

誰か教えて

サステイナブル

(コーラス) ラブユー・テンダー・シー・オー・ツ

おれがじゃまなら

ベイビー

温暖化と同じに

ベイビー

目のまえが

(コーラス) O目のが

クライシス

(コーラス) クライシス

気分次第で

シー・レベル・ライズ

(コーラス) ギブミー・フォスル・ヒュエル

今夜もガスが

ヒートトラップ

(コーラス) ラブユー・テンダー・シー・オー・ツ

氷が溶けたぜ

ベイビー

天気もあれたぜ

ベイビー

目のまえが

(コーラス) O目のが

クライシス

(コーラス) クライシス

トンボのヤゴがフニャフニャとやってくる。

ヤゴ

ちょっと、ちょっと、旦那。なにしょぼくれていますか。ちょ  
っと旦那！(回り込んで、クマの顔を覗く) 目の回りにそんな  
クマを作って。

クマ

私はもうだめ、・・・あんた誰？

ヤゴです。

クマ　なんで猫がこんな所へ？

ヤゴ　猫？！

クマ　だって、いまニヤーゴって・・・。

ヤゴ　ニヤーゴじゃなくって、ヤゴですよ。トンボ。(クマが怪訝そうに見ている)ほら、♪トンボのめがねは水色めがねって(クマお尻をかく)♪ゆうやーけ小やけえの・・・あのね、トンボの

クマ　幼虫だろう。最初からそういうばいじゃないか。ニヤーオだなんて。

ヤゴ　だから、言ったでしょう。

クマ　ところで、トンボの幼虫が、なんでこの季節に？

ヤゴ　それが、私にもわかんないですよ、私にも。私はあんだとは

クマ　違って、親の顔を見たことがないので・・・親からは教えてもらえなかったんです。親子の断絶なんて生易しいもんじゃな

クマ　いですよ。最初から親はいないんですから。

クマ　なるほど、だからといってグレることはないだろう。

ヤゴ　グレてません！

クマ　でも、そんな格好をしてるから・・・。

ヤゴ　だから、ヤゴだっていつてるでしょう！

クマ　でも、もう、一二月なんだから、あんたがいるの褒なんじゃない。それに、ヤゴってのはこんなに小さくて、かわいらしいはずなんだが、こいつは・・・。

ヤゴ　ええ、まあ、そういうわれでも、そういうことになっちゃってるんです。

クマ　「なっちゃってるんです」なんて。ああっ、もうっ、こんな自分のことでも忙しいときに、やっかいな奴が現れたな。

ヤゴ

変なのは私だけではないのです。

クマ

なにっ！他にもいるのか？どうすんだよ。

ヤゴ

ええ、ここところ、空を飛べるようになった仲間の話では・  
・・。

クマ

つまりトンボだな。おまえの親たちだな。

ヤゴ

えっ、あれが。じゃ、どれが私の親なんですか？

クマ

わからないんだよ、おれにも。で？

ヤゴ

さよなら、母さん。ええ。その仲間の話では、餌にしている蚊  
に異変が起きているそうなんです。

クマ

おまえはやっぱり変わっている。

ヤゴ

えっ？

クマ

幼虫のくせに、「えへん」なんて学者みたいに偉そうな言葉  
使っている。

ヤゴ

すみません。でも「異変」です。

クマ

別に謝る必要はないんだ。この会場に学者らしき人だっている  
んだから。で、なんだ？その「えへん」は。

ヤゴ

ええ、えさに、これまで南の方にすんでた蚊が混じってるんだ  
そうです。暖かくなったもんで、これまで南の方にしか住んで  
なかった蚊がこのあたりで見つかるんだそうです。南の方の蚊  
ってまずいでしょう。

クマ

さあ、蚊は食ったことないから・・・。

ヤゴ

とにかく、南の国の蚊はまずいらしいんです。それに、得体の  
知れない病気を持っているかもしれないし・・・これから、ト  
ンボになっていく僕は不安で不安で・・・。

クマ

(いらいらして) 蚊ぐらいどうだっていいだろう、蚊ぐらい。  
おれなんか、一生懸命編んだマフラ―がポイだぜ。手編みのセ  
ータも、おしまいだ。

ヤゴ

蚊ぐらいでっていわないでくださいよ、これはほんの一例なん



ですから。おそらく地球の温暖化はもう始まっているんです。

クマ　だから、その難しい言い方、やめなつて。おれは曲がりなりにも難しいことという人のことを、これまで信じていたよ。リサイクルがいいっていうから、やってきたよ。それがこの始末だから。リサイクルがなんだ。未来を救おうだって？おれにはもう、未来がないよ。

ヤゴ　はあ、陰ながら、見さしていただきました。一部始終。

クマ　どうしたらいいんだ。国語の授業よりむずかしいよ。

ヤゴ　なんですか？それ！

クマ　だから、「珍聞漢文古典」って。

ヤゴ　ああ、わたしを幼虫だと思って馬鹿にしてるんですよ。いいですよ。そのうち、あなたの餌だって、ここでは食べられなくなってしまうんですから。

クマ　なんだそりゃ？

ヤゴ　仲間の話では、この地球はあと一〇〇年ぐらいすると気温が二度から三度あがるんだそうです。そうなったら、植物だって変わってしまうんです。そうすると、生物は食べ物を通じて、互いにつながりあっているんですから、あなたが、食べたい思っている、動物も植物もなくなってくる。

クマ　もう、るっせえな。どうってことねえよ。毎日の朝と昼の気温を考えてみな。一〇度も違うときがあるんだよ。一〇度も。二度三度なんて、朝飯まえのラジオ体操だ。

ヤゴ　そう、最近では、夏休みのラジオ体操も少なくなつて……ちがうんですよ。地球には寒いところも、暑いところもある。一年通して、それを平均して二度ですからね。

クマ　には算数ができないの。

ヤゴ　じゃ、クマさんのためにこう考えましょう。

クマ　あつ、嫌みな言いかた。

ヤゴ　（大げさにものありげに）いいですか、よく聞いてくださいよ。氷河期がありましたね。（背中から説明のプラカードを出

す。そのなかには「氷がき」と書いてある。」地球全体が冷たくなつて……

クマ 氷菓子は昨日食った。

ヤゴ 氷菓子でなく氷河期です。ほら、地球の大部分が氷で覆われ、たくさんの動物たちが死んでいった氷河期です。

クマ そんなに寒いなら、おれたちは、みんな白熊になるよ。

ヤゴ そう簡単になれませんか。いいですか、あれはね、平均気温がたった三度下がっただけでなるんだそうですよ。三内丸山遺跡知ってるでしょ。あそこの縄文時代は、今と、たった一度高かっただけだそうですよ。それなのに、海面はいまより四から五メートルも高かったっていうし、粗末な服を着た縄文人が生活できたほどいい気候だったって。

クマ 見たのかよ。

ヤゴ なにを？

クマ 縄文人を見たのか？……見てないだろ？いいって、いいって

きにすんな。じゃあ、三度、温度が上がったら……。

ヤゴ (遠くの方を見つめて) はい、大変なことが……。

クマ (ヤゴの頭をたたいて) 突然変な声出して、脅かすんじゃないよ。

ヤゴ 緑が失われ、砂漠が広がる。南極の氷が溶け、海の水が増える。

クマ ほんほん。

ヤゴ (クマをにらみつけて) 海面がメートルも上昇して、陸地は水に沈む。オランダやバングラディッシュなどの比較的低い土地はス・イ・ポ・ツ・する。ツバルはどうなるんだああ！

クマ おまえの顔の方がよっぽど怖いよ。じゃ、どうすりゃいいんだよ。ちよつとまてよ。だけど、なんで地球は暖かくなるんだ？太陽に照らされていりゃ、暖かくなるんじゃないの自然に。

ヤゴ そこがクマさん。そう考えることがわれわれ動物の「赤坂・見附・六本木・原宿あたりのお兄さん、よく見りゃ髭のおねえさん」ですよ。

クマ なんだそりゃ。

ヤゴ 二酸化炭素です。CO<sub>2</sub>です。

クマ なにっ？

ヤゴ 二酸化炭素です。CO<sub>2</sub>です。

クマ わかんないやつだな。兄さんが炭坑で塩撒いててどうすんだ。

ヤゴ そうじゃなくて（プラカードを出す「二酸化炭素」「CO<sub>2</sub>」）、  
普段は、太陽から来る熱と、出ていく熱とがちゃんとバランス  
をとっている。ところが、いま、炭素に換算して、年間、六〇  
億トンも出されている二酸化炭素ってガスがね、主に地球を覆  
ってしまうため熱が逃げられなくなるんです。

クマ じゃあ、おおきな掃除機持ってきてそのガスを吸い取るとか  
・  
・

ヤゴ 掃除機じゃ吸い取れないんです。

クマ そうじきでよろしい！

ヤゴ ハチャーツ！まあ、海も吸い取るんですが、それが、急激に増  
えるとは考えられない。森があれば、森が二酸化炭素を少しは  
吸い取ってくれるのですが、二酸化炭素は次から次へとでてく  
るもんで、どんどんたまる一方です。森だって、どんどん減っ  
ているでしょ。

クマ 炭酸ガスか。たまったもんじゃねえなあ。

ヤゴ いえ、たまってるんです。

クマ だから、たまったもんじゃ・・・まあいい。あんまり勉強し  
たので頭が痛くなった。

遠くの方で、人々が騒ぐ声が聞こえる。クマ、そちらの方へ向かう。

クマ 騒がしいなあ、十二月になってからもハイキングかよ。ドキ  
ツ！そんなことより彼女がやってきた。一刻を争うんだ。おれ  
には温暖化よりこっちの方が大切だ。おれはもう生まれ変わっ  
たんだ。昨日までのリサイクルグマとは違うんだ。文化生活の  
先端に行く、モダングマだ。

ヤゴ  
（小さな声で）奥様ですか？（クマに殴られる）殴らなくなっ  
ていいじゃないですか。

クマ  
おまえは、女の人を見たら、みんな奥様なのか！だから、いつ  
までもお前たちはトンボのままなんだ。進化しろ、進化。おれ  
たちほ乳類のようにオツパイでも出してみろ！（ヤゴ、自分の  
胸を見て、耳打ちする）なにっ！「胸が小さいので出すのが恥  
ずかしい」そんなこと言ってんじゃないの！

ヤゴ  
?! いいこと教えましょうか。

クマ  
もういい、おまえは黙ってるよ、話がややっこしくなるからな。

クマ、突然サングラスを取り出し、若者ぶる。

クマ  
イエイ、久しぶりだな。クマ子さん。

雌グマ  
あら、さっきあつたばかりですよ。

クマ  
そっ、そうか！あつ、あついねえー二月だってえのに。

ヤゴ  
温暖化ですよ。

クマ  
（ヤゴに）しゃしゃりでてくるんじゃない。

雌グマ  
なにか用？あたし急いでるの。用があつたら早くして。

クマ  
ちょっと、その海辺までエアコンの利いた車で走ってみよう  
か？

雌グマ  
（びっくりして）さっきあなた自転車で、それに、あなた免許  
なかったでしょう。

クマ  
・・・だから、タクシーで・・・でなきゃ、うち巢穴でD  
Vでも見て夜を明かさないか、缶ビールでも買って行って。

ヤゴ  
アルミ缶はエネルギーを無駄に使いますので、リターナブルな  
瓶ビールにしてください。

クマ  
「がんばれベアーズ」とか「小熊物語」とか。年金の蓄えを使  
えば、エアコンの一台や二台。

雌グマ  
でも・・・。

クマ  
手編みのセーターなんてやめたよ。今までの物はみいんなすててしまいな。どんどん、新しい物を買ってやるよ。

雌グマ  
あなた、この間までリサイクルに凝ってたでしよう。粗大ゴミを拾って、これまだ使えるって、仲間にあげてたでしょ。

クマ  
そりゃ、昔のこと。俺はもう変わったんだ。消費文化の先端に行くポスト・ニューエイジなんだよ。

雌グマ  
あなた変わったわ。

クマ  
変わった？わかってくれた？ どう、見直してくれたかい。

ヤゴ  
親分！

クマ  
（小さな声で）ばかたれ、いつから、おまえの親分になったんだよ。

ヤゴ  
温暖化、温暖化、省エネですよ、リサイクルですよ。

クマ  
うるさいっ！今いいところ何だ。なにが省エネだ、そんなに

うならトンボの羽で風力発電でもして見ろ。くそっ、こんな新聞なんてくそくらえだ。（新聞や瓶缶を放り投げる）

ヤゴ  
いたい、いたい、やめてくださいよ。私はただ・・・。

クマ  
おまえがごときトンボめらに、俺のつらさがわかってたまるかよ。（ヤゴを追い回す。）

ヤゴ  
わかるけど、いたい。そうやって、無駄にエネルギーや物を使えば、地球はますます熱くなっていくよ。

クマ  
こいつめ、おれだつて省エネしたいよ。けどよ、省エネ、リサイクルを進めりやすめるほど彼女の心は離れていく。地球が冷えていけば、俺の心は冷えていくんだよ。この年になって、やっと好きな人ができたっていうのに。

やめて。

クマ  
（急にやめる）はい。

雌グマ  
この方のいっていることは本当なの。

クマ  
なんだって、クマ子さん?! こいつは、「この方」なんていう奴じゃないよ。口先だけのヤゴだよ。さあ、文化生活しようよ。

雌グマ  
本当に、地球はどんどん暖かくなってきてるみたいなの。

クマ  
どうしたのクマ子さんまで! まさか、背中にこいつの仲間のシオカラトンボでもくつついてるんじゃないだろうな。(後ろに回る。トンボを追っ払う仕草。)

雌グマ  
わたしも、そのことは知っていたわ。あなたが、物を大切にすることを知っていたわ。そのことをいつももうらやましくも思っていた。

クマ  
(ヤゴを撫でながら) そんならそうと早くいってくれば・

雌グマ  
でも、自信がもてなかったの。そんなことをしたって、温暖化は止まらないんじゃないかって。だから、かえってあなたに反発してたの。

クマ  
・  
・  
・  
・

雌グマ  
私が悪かったわ。今日ね。あのあと、あの人と車で走っていた。海辺を。

クマ  
どうする。海辺だよ。(ヤゴを叩く)

雌グマ  
そしたら、みんながワアワア騒いでいるの、別荘が一軒傾いていた。なんでも今年になってから、海岸線がずっと近づいてきたんですって、やがて、土台が波にさらわれて・  
・  
・

クマ  
ほんとか。

ヤゴ  
おかしい、温暖化はそんなに急にはやっこないはずですが・  
・  
・

クマ  
あるんじゃないの、ほら、うちのおばさんみたいに、急に、「ちがぐさきたがら寄ったおん」なんて。

雌グマ  
カー・ラジオで聴いたんだけど、温暖化防止のために今日から街では電力を六〇パーセントも節約しなければならぬんだって。それに、ガソリンを入れようとしたら、大きい車にはガソリンはもう、売らないっていうの。

クマ

で？

雌グマ

彼は怒って、ガソリンスタンドを荒らし、ガソリンを奪って逃げたわ。

クマ

なんてやつだ。クマの恥さらしだ。

雌グマ

わたしも、這々の体で逃げ帰ってきたんだけど、来る途中、いろんな光景を目にしたの。だれかが、ガソリンを横流ししたとかで、街の中はパニック状態。「電気よこせ」「燃料よこせ」ってデモが街を練り歩いているの。もうすぐ、その人間たちが燃料の薪を探しに森へやってくるそうよ。

再び、遠方が騒がしくなってきた。背景のどこかが萌えているようだ。煙も出ている。

ヤゴ

おそれていたことが現実になりつつありますね。（クマ子がやってきた方向を見て）来た、来た、人間たちがやってきた。

クマ

くっそお。おれの心はマグニチュード七・二で揺り動いてるぞ。おまえ、なんか知ってたんだろう。トンボの仲間に聞いたんだろ。

ヤゴ

温暖化が急に加速されてきたんですね。だんだん暖かくなってきたなんてもんじゃなく、相乗効果ってやつですよ。暖かくなって、生物環境が変わる。炭素が固定化・吸収化されなくなる。そしてますます暖かくなる。でもこんなに早く・・・。

雌グマ

ずっと前から、そういわれてきていたのに、みんな安心してたんだわ。自分と関係ないと思っていたから。わたし、なんだかおそろしくなってるクマさんのところへ・・・。

クマ

もうちょっと前に思い出してくればいいのに。（半泣きである）おそいんだよ、あいつらがやってくりゃ。俺たちの森もなくなるんだよ。

ヤゴ

あっあっ、こっちにやってくる。人間たちがうろろうしてるぞ。

雌グマ

ねえ、どうしよう。

ヤゴ

親分！火星のように水がなくなっちゃうのかい。

クマ

親分じゃないって。なんで火星の話が出て来るんだ。とにかく、俺たちの森を守らなければならぬ。奴らは、パニックになっただけだから、ちゃんと我慢すれば、今のままでも生活でき

るってことを教えてやるよ。

ヤゴ　　いうねえ。恋はクマをも変えるね。

クマ　　ヤゴ、おまえの頭が必要だ。(ヤゴ頭を差し出す) そうじゃない。おまえの知恵だ。お前たちは、地球誕生の時からずっとこの地球を見てきたんだ。地球が生まれた時から知恵を持っている。地球が減びようって時にそれを生かすんだ。

ヤゴ　　わかった。

クマ　　よし行くぞ！

ヤゴ、体を震わせながらトンポに変態する。くまが、それに飛び乗る。

雌グマ

わたしも行く。ねえ、またマフラー編んでくれる。今度はインシャル入れて。温暖化は私たちの手で止められるわ。ええ、そう思いましょう。

ヤゴ　　はいっ。

クマ　　おまえが返事して、どうすんだよ。

雌グマ　　ねえ、クマさん。

クマ　　はいっ！

再び、変な動物の格好をしたロック歌手が舞台を通り過ぎる。  
ラテン系のノリで。

♪おばあちゃんのおまじない

うちのばあさん八〇で元気  
いまだに地下鉄、市営バス  
ノーレジ袋・エコバック  
風呂敷かついで買い物がいり  
転ばぬ先の まじないは  
おんだんかすんだらだんすかんだんお  
あんだでもユー・キャン　オラにもアイ・キャン  
おんだんかすんだらだんすかんだんお

うちのばあさん八〇で元気  
早寝早起きあさごはん  
ノーレジ袋・エコバック



ほおかぶり日よけに軒先談義  
転ばぬ先のまじないは

あんだでもユー・キャン オラにもアイ・キャン  
おんだんかすんだらだんすかんだんお

歌の間に背景の色が変わり、煙が充満する。

幕